

「税」を知った日

仙台市立仙台青陵中等教育学校 3年 山形谷 アラン

今年の春休み、久々に家族で風邪をこじらせ、母と一緒に病院で診察を受けた時のこと。会計を終えて何げなく領収書を見せてもらおうと、ほぼ同じ内容の明細書なのにもかかわらず、支払い額だけが、母の分と異なっていることに気付く。疑問に思い、母に尋ねると、仙台市が負担してくれているとだけ説明があった。どういう意味なのかわからず、その時はそのままにしていた。だが後日、別の病院で診察を受けても、やはり先日と同じ額しか支払っていない。しかも薬局には支払いすらしていなかったのだ。前回の母の言葉を思い出し、調べてみることにした。

まず、仙台市では子供の医療費の一部を子育て支援として負担してくれていることがわかった。財源は税金であることも初めてわかった。今まで私の身近な税金は消費税で、多く支払うだけの印象しかなかった。まさかこんなふうに、自分に直接、税金が使われているなんて思いもよらなかった。そして、ふと病院に診てもらわないと損なのではないだろうか、一定額を支払えばいいのであれば何回も行った方が得なのではないだろうか。という考えに至る。そのことを母に伝えると、母から神戸市のホームページを見るよう促された。

神戸市では子供の医療の一部負担金に対する支援は完全に無料化しない取り組みが行われている。その理由として、軽い風邪や小さなすり傷などで受診する「コンビニ受診」を誘発するのを防ぐこと、過剰受診を防ぐことで本当に医療を必要とする人たちへの対応が遅れることを防ぐこと等が挙げられていた。

確かに、神戸市の主張のとおりである。自分の利益だけを考えた発言がとても恥ずかしくなってしまった。更に考えてみると、そもそも税金で支援が行われているのだから、自分たちが納めたお金のなかなので、損得で考えるものでもない。ますます、自分の考えに嫌気がさす。

この出来事がきっかけで、市町村のホームページを閲覧したり、図書館で税に関する本を手取るようになり、税を意識することもなかった日常から、税の使い道に興味を持つようになった。税の仕組みを知ること、社会における私自身の位置を認識することができ、「公共」と「私」がやっと線で繋がった気がしている。そして改めて、自分の周りを見渡すと、ライフライン、ごみの処理、消防、図書館、教育と挙げればきりがなくらいの公共サービスに支えられていることを実感する。

しかし、私たちが納めた税は有限である。感謝の気持ちを忘れず、納税の義務を果たしていくことが大切である。